

県立田奈高等学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

審議会等名称	県立田奈高等学校 平成 29 年度 第 1 回学校運営協議会
開催日時	平成 29 年 7 月 15 日 (土) 9 時 30 分 ~ 11 時 30 分
開催場所	県立田奈高等学校 図書室
[役 職 名] 出席者	<p>[委員] 矢野 眞和 (東京工業大学 名誉教授) 宮本 みち子 (放送大学 副学長) 市川 宰 (公益社団法人緑法人会 事務局長) 石井 正宏 (株式会社シェアするココロ 代表取締役社長) 小林 正利 (日本体育大学 教授) : 欠席 佐藤 教道 (田奈高等学校 校長)</p> <p>[事務局] 木村 則夫 (副校長)、梅田 俊輔 (教頭)、吉野 瑞男 (総括教諭)、 一 條 直宏 (総括教諭)、鈴木 有 (総括教諭)、石垣 里枝子 (総括教諭)、 中澤 孝平 (教諭)</p>
審議(会議)経過	<p>1 校長あいさつ 2 学校評議員 委嘱 学校長より実施 3 協議</p> <p>○ 本校コミュニティースクールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名称については「田奈高等学校学校運営協議会」に決定した。 ・会長は矢野委員、副会長は宮本委員に決定した。 ・重点化する協議内容と設置部会について、今年度はまず学校評価部会とキャリア支援部会を設置することに決定した。それぞれの部会メンバーは資料のとおりで決定。 <p>○ 本校の現状と課題・今後の取組みについて (意見聴取)</p> <p>(1) 概況について (佐藤校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜の定員割れについて説明。 ・クリエイティブスクール 5 校の横の連携、クリエイティブスクールと同じ性格をもつ東京都立のエンカレッジスクールや、大阪府のエンパワーメントスクールの視察などを通じて、本校の課題に対する情報を集めていきたい。 <p>[委員からの意見聴取]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員割れをした影響か、高校入学の段階で自尊感情をすでに損ねている生徒が例年よりもいるように感じる。クリエイティブスクールのブランディングが必要だが、定員割れだと難しい。学校組織だけではどうにかできる問題ではないと現場に入って感じている。 ・定員割れの理由を調べて、田奈高校のニーズがどのように動いたのかを把握していく必要がある。 <p>(2) カリキュラムの変更について (吉野総括教諭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに説明。生徒の現状に合わせたカリキュラムの変更を行った。 <p>[委員からの意見聴取]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 年生での数学必修はよいことだと思う。 ・選択科目を仲の良い友人同士でとり、その後関係が崩れると授業に入れなくなる場合があるので、選択科目の減少はメリットがあると思う。 <p>(3) 学習支援の状況について (一 條 総括教諭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに説明。 ・学力が低い生徒以外に学習意欲が低い生徒への支援を考える必要がある。 ・昨年度はタブレットを試用したが、プリントとの併用は難しい生徒もいた。 <p>[委員からの意見聴取]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下位層にカリキュラムを合わせていくと、上位層にとってはつまらなくな

	<p>る。上位層の知的好奇心を満たすものの用意が必要かと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字が書けない生徒は識字障害の可能性もあるのかもしれない。授業中にキーボードで打ち込むなどの対策はないので、ついていけなくなってしまう生徒も一定数いるのでは。 ・学力低下と学校行事との関連はあるのではないか。 <p>(4) キャリア支援について 進学状況と奨学金関係（鈴木総括教諭）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに説明。 ・生徒の困難度が上昇している。 ・卒業生の減数があるものの、就職者数は変化がないことから、相対的に就職率が上がっているといえる。 ・生活困窮家庭の生徒に対し、奨学金については積極的には勧めていない。 <p>[委員からの意見聴取]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門学校の卒業率は大学と比べてどうなのか。 → 専門学校の場合は短期であることと、専門性の高い授業が多く、生徒の目的意識が比較的はっきりしていることから、大学より卒業率は高いように思われるが、実際はデータがない。芸術系の専門学校については一部だけが生き残るリスクも説明しないとイケない。 ・逃避行動として2次元や動物系の専門学校進学に傾いてしまう生徒がいるように感じる。 <p>(5) 介護プログラムについて（石垣総括教諭）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの概要説明、想定を超えた希望者が集まった。 ・ぴっかりカフェやDrop-Inなどから介護に対する意欲を感じていた。 ・介護職員初任者研修について説明。希望人数は多かったが、事前課題に対しての取組みに困難がある。また、90分授業という部分に不安があるが、今年度はこれで実施をして、来年度以降生徒の実態に合わせて検討をしていく必要はあると思う。 <p>[委員からの意見聴取]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とてもいい事業と感じる。初任者研修のテキストについて、ぴっかりカフェで事前学習をする生徒もいたが、意味は同じでもニュアンスが違う文章が、正しい文章だと気づくことができないなど、読解の部分での課題は多いと感じる。最後の現場のところで本来の趣旨が薄まっていくのではないかと心配する。 ・テキストで事前に学習していくスタイルは本校生徒の実態を考えると工夫をしていく必要がある。実習中心にしていった方が企業と生徒どちらのメリットも満たせるのではないか。 <p>4 校長あいさつ</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・学校要覧 ・学校案内 ・介護プログラム関係資料 ・コミュニティースクールについて ・平成30年度入学生教育課程表 ・39期生修学旅行について ・学習支援関係 ・進路関係
次回開催予定日	平成29年10月
問い合わせ先	県立田奈高等学校 副校長 木村 則夫 電話番号 045-962-3135